

2020年10月6日掲載
物流ニッポン

新東京社宅が竣工

家族・単身むけ228戸

第一貨物

第一貨物（米田総一郎社長、山形市）は9月30日、新・東京社宅（江戸川区）が竣工した、と発表した。東京プロジェクト（東京PJ）と総称して、首都圏に点在する拠点施設の再開発を進めているもので、東京社宅に続き、今後、新・東京支店（江東区塩浜）、新・東京整備工場（埼玉県吉川市）などが相次いで竣工、本稼働していく。

東京社宅は敷地面積4600平方メートル、地上7階建て、総戸数は228戸。家族向けの3LDK50戸、2



LDK29戸、また、単身向けの1K141戸など。現在の東京支店に併設の社宅を移転、新築したもので、

従業員の仕事環境の整備を図る。住環境の整備を図った。同社によると、東京PJと称して2大旗艦店（東京山形）の移転新築、また、整備工場の統廃合に伴う移転新築、更に、東京社宅や埼玉八潮社宅（埼玉県八潮市）の建て替えなどを行う。現・東京支店（江東区）の代替えとなる新・東京支店は2022年1月の竣工を見込む。